

モンゴロイドとその遺跡について

人類学では、かつては世界の三大人種をネグロイド、コーカソイド、モンゴロイドと呼んできたが、今日ではそれぞれ主な居住地域から、「アフリカ人」、「ヨーロッパ人」、「アジア人」という呼び方で分類している。「アフリカ人」は、ホモ・サピエンス誕生以来ずっと故郷の地に暮らし続ける肌の黒い人々。「ヨーロッパ人」はアフリカを旅立ったのち、東に向かったわれわれの祖先たちと別れ、欧州に住み着いた人々を指す。そして、太陽の昇る方向を目指して長い旅を続けた集団を「アジア人」と呼ぶ。

「ヨーロッパ人」と別れて東に向かった一団は、大きく二つのルートに分かれる。故郷アフリカの温暖な気候を求め進んだ「南回廊」と、極寒のシベリア平原を進んだ「北回廊」である。

二つの道を別々に歩んだわれわれの祖先たちは、それぞれ旅の途中で人類史上に燦然と輝く偉大な記録を残している。北回廊を歩んだ人々は、温暖地方でしか生きられなかった人類にとって初めての「寒冷地克服」という快挙を成し遂げた。そして南回廊にコマを進めた人々は、陸地しか移動できなかったヒトが、初めて海を渡るのに成功するという「海洋適応」を果たしたのである。

北回廊を歩んだ人々をモンゴロイドという。モンゴロイドとは「モンゴル人のようなもの」という意である。しばしば黄色人種とよばれる。小児の臀部(でんぶ)から背部の皮膚には青い小児斑(はん)がみられる。

モンゴロイドは、モンゴル人が象徴的ではあるが、旧石器時代は当然モンゴルという国がなかったので、現在のモンゴルとロシアの森林地帯に住んでいた。ロシアのバイカル湖の近くにあるマルタ遺跡は彼らの生活の後が残されている。高度な石器技術を持って豊かな生活をしていたようである。そのことについては、NHKの「日本人はるかな旅」という特集番組（第1集「マンモスハンターシベリアからの旅立ち」という番組がNHKオンデマンドで見ることができるので、まずそれを見てもらいたい。（注：NHKオンデマンドで見るとするには、会員になり料金を払うなど所定の手続きが必要です。）

<https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2010021817SA000/index.html>

モンゴロイドの遺跡はモンゴルにもあり、それについては稿を改めて紹介します。